第２学年　国語科学習指導案

平成２８年１１月２日（水）５校時
２年２組（男子１２名　女子１２名　　計２４名）　本時　４／９
授業者　森田　幸子

１　単元名　　お話、大すき！「世界に１つだけのお話を作ろう。」
教材名　　「絵を見てお話をつくろう」（東京書籍２年下）

２　単元の目標

○絵から場面の様子を想像して物語を書くことに興味を持ち、楽しんで取り組むことができる。（関心・意欲・態度）

○絵から場面の様子を想像し、人物の行動や会話のつながりを考えて物語を書くことができる。（Ｂ　書くこと ウ）

○書いたものを読み合い、良いところを見付けて感想を伝え合うことができる。（Ｂ　書くこと オ）

○会話文としてのかぎ（「　。」）の使い方を理解し、文章の中で使うことができる。（言（１）イ（オ））

３　単元について

（１）単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第１学年及び第２学年「Ｂ　書くこと」の指導事項「ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと」と、「オ　書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと」を取り上げて指導する。

②付けたい力へ向けての言語活動とその特徴

「Ｂ　書くこと」の言語活動例「ア　想像したことなどを文章に書くこと」を具体化した「お話、大すき！『世界に１つだけのお話を作ろう。』」という言語活動を位置づける。

ここで取り上げる言語活動は、３枚の絵から場面の様子を想像し、登場人物の行動や会話、出来事のつながりを考えて物語を作り、お話発表会を行うという活動である。

その際、３つの場面を構成するに当たって、「時」「場所」「人物」に着目しながら会話を考える活動から入ることで、児童が意欲的に「始め」「中」「終わり」の登場人物の会話や行動、出来事がつながるような物語を展開させていくことができると考えている。そこで本教材では、物語を書く活動を通して創造的に思考し、判断し、表現する力を身につけることを目指したい。そして、さらにここで学習したつながりを考えて書く力が、日記や作文、生活科で調べたことを書く場面等で活用できると考えている。

（２）児童観

今年度４月に行われた標準学力調査において２年生は、「読む」領域で、「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」力に弱さが見られた。「書く」領域では、全国に比べ、ポイントは上回っていたが、「言語」領域では、「助詞の使い方」に弱さが見られた。

「書く」領域の中では、１学期に絵を見て主語や述語を使って短文を作ることができるようになってきている。また、順序を表す言葉を用いて文と文をつなげることもできるようになってきている。しかし中には、促音が正しく表記できにくかったり、助詞が正しく使えず文意が反対になったり、意味の分かりにくい文になったりする児童もみられる。また、「始め」「中」「終わり」の構成を考え、自分の経験を伝える文章を書くことができるようになってきているが、１つの文が長くなったり、同じ話が何

回も繰り返されたりすることも少なくない。
７月には、図書館教育で、１学期に学習した説明文「たんぽぽ（ひみつカード作成）」や物語文「お手紙（リーフレット作成）」の学習を生かして、紙芝居を作る学習をした。そこでは、お話が途中で変わったり、まったく関係のない登場人物が突然出てきたりと、人物の行動や出来事のつながりを考えて書くことに弱さのみられる児童もいた。
そこで本単元では、３枚の絵から、場面の様子を想像し、登場人物の行動や会話、出来事を中心に場面のつながりを考えて文章を書く力をつけたいと考えた。また、自分１人ではなかなか間違いに気付きにくいため、自分の書いたお話を音読したり、友だち同士で読み合ったりすることで、間違いに気づかせていきたい。また、友だち同士で、書いたものを読み合い、良いところを見つけて感想を伝え合うことで、自分の物語をより良くし、物語を創作する楽しさを実感させたい。

（３）指導観

第一次の単元の導入では、1 学期に児童が作成した紙芝居や教師のお話のバッドモデルとグッドモデルを提示することで、お話作りへの意欲づけを図りたい。児童は、自分達が作成した紙芝居や教師のモデルを見ることで、「できそう」「やってみたい」という意欲を高めるであろう。
第二次では、まず絵を見て登場人物をおさえ、「時」「場所」、さらに３つの場面の「出来事」を想像させた上で、吹き出し（会話）を考えさせていく。次に、会話、場面、出来事をつなぐような文章の構成を意識したお話を書く。また、途中で友だちのお話を読み合う活動を取り入れ、お話のつながりの良いところや、参考にしたいところなどを伝え合い、自分の作品の中に生かしながら、お話を最後まで書いていく。
第三次では、自分たちの作った「世界に１つだけのお話」を発表し合い良いところを見付けて感想を伝え合い、場面がつながるように物語を書くことができたかを振り返る活動を仕組みたい。
このように能動的に「思考」「判断」「表現」する活動を通して、他教科にも生かすことができるように文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書く力を身につけさせたい。
本時は、前時で作った吹き出し（会話）をもとに場面の様子がよく分かるように人物の行動や会話、出来事のつながりを考えてお話を作る。そして、できたお話をペアで読み合い、前の場面とのつながりや気持ちや様子を表すステキな表現「きらりことば」を見つけて伝え合う。その際、迷っていることや困ったこと、分かりにくかったところを伝え、アドバイスしてもらう。また、自分が想像したことと比べながら、話を聞くようにする。このような友だちとの交流を通して、作品について想像したことに様々な違いがあることや友だちが想像したことのすばらしさに気付き、良いところを見付けて伝え合うことが、次時への言語活動の質の高まりにつながると考える。

（４）研究テーマとの関連「主体的な学びで共に高まりあう児童の育成」

主体的に児童が学ぶためには、与えられた指示に従って学習を進めるだけでなく、児童自身が単元を通して学ぶ目的をもち、見通しをもって言語活動を進めていく展開にしていく必要がある。そこで導入では、教師が作成したモデルを見せたり、児童が作成した紙芝居を見せたりすることで、児童が「お話をはやく作ってみたい。」という思いを持ち、単元のゴールイメージを具体的に持てるようにする。このように、単元全体の学習の見通しを持たせることにより、児童は目的意識を持ち、世界に１つだけのお話を作り、お話発表会をするために意欲的に学習を進めていくと思われる。
そして、登場人物になりきって会話をする活動を取り入れることで、どんな出来事が起こるお話にしようか考え、さらに楽しく学習を進めていくと考えられる。
また、本校で取り組んでいる『家庭学習と授業のサイクル化』については、毎時間次時の学習に関連する家庭学習（予習）を出すことによって、次時の授業に生かそうとする主体的な態度も育てたい。
子ども達が「分かった」「できそう」「できた」「もっとやってみたい」という思いを

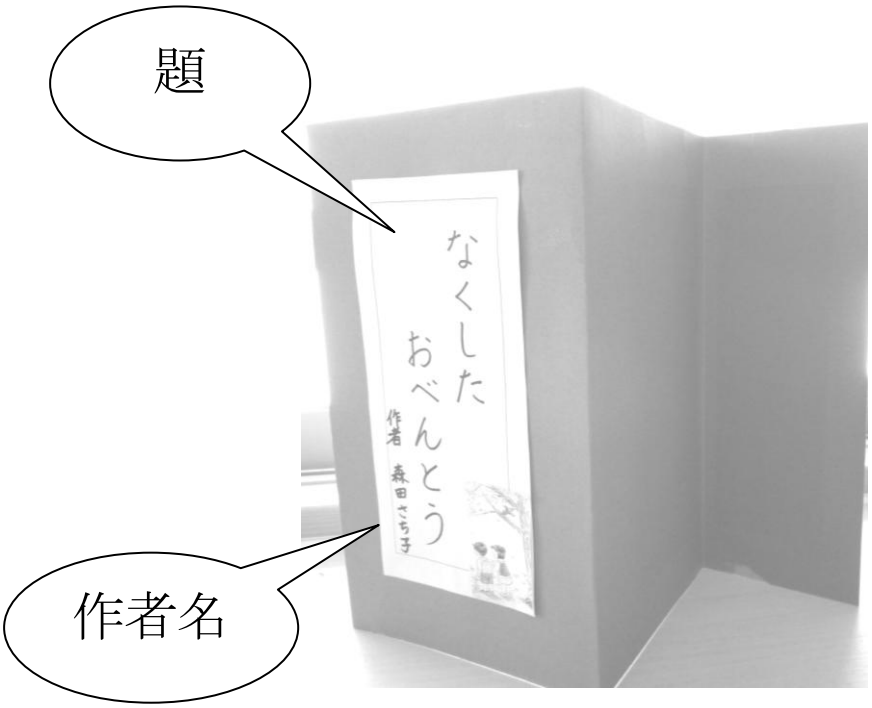
持つこと、そして、その機を逃さない評価も重要である。児童の自由な発想を大切にして活動に取り組ませ、想像することの楽しさや、お互いの想像を交流する喜び、「世界に１つだけのお話を作ることができたよ。」という達成感を味わわせることが、次の学習への意欲につながっていくと考える。

さらに、ペアや学級全体で単元を通して良さや困った点、改善点等について相手の意見を聞きながら一緒に考える活動が、「共に高まり合う」児童の育成につながり、国語以外の様々な学習にも生かしていけると考えている。

４　単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・絵から場面の様子を想像してお話を書くことに興味を持ち、楽しんで取り組もうとしている。
書く能力	・絵から場面の様子を想像し、人物の行動や会話のつながりを考えてお話を書いている。（ウ） ・書いたものを読み合い、良いところを見付けて感想を伝え合っている。（オ）
言語についての 知識・理解・技能	・会話文としてのかぎ（「　。」）の使い方を理解し、文章の中で使っている。イ（オ）

＜言語活動のモデル＞「お話、大すき！　世界に１つだけのお話を作ろう。」の例


題
なくした
おべんとう
作者 森田さち子
作者名

ある日、みみちゃんとひろしくんは、おかの上にピクニックに行くことにしました。
森の中を歩いていると、みみちゃんが、言いました。
「あれ、何だろう。」
それは、水玉もようのかわいいハンカチでした。
「だれのかな。」
ひろしくんが、言いました。みみちゃんが、
「とどけてあげよう。」
と言いました。
それから二人が歩いて行くと、森のどうぶつたちが何かさがしています。
「どうしたの。」
みみちゃんが、聞きました。りすさんが、
「ワァーン、どこかにおべんとう、おことしちゃったよう。」
と、大声でないています。
ひろしくんが、ゆびさして言いました。
「りすさんのおべんとうって、これじゃない。」
「あっ、それ、ぼくのだ。」
りすさんが、うれしそうにさけびました。
「みつけてくれて、ありがとう。」
りすさんは、大よろこび。みんなにおれいを言いました。
「みつかって、ほんとによかったね。」
森のどうぶつたちも、とってもうれしそうです。
そして、みんなでいっしょに
「おいしいね。」
「おいしいね。」
と言いながら、なかよくおべんとうを たべました。

５　単元構想図

◇学習の流れ

第一次

○学習への意欲と見通しを持つ。
・「世界に１つだけのお話」を作って、お話発表会をするというゴールイメージを持つ。

第二次

○３枚の絵を見て「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」お話にしたいか考え、それぞれの登場人物の会話を想像する。
○お話を書くときに大切なことを考える。
○「時」「場所」「人物」「行動」に気をつけて、場面がつながるように物語を書く。
○友だちのお話を読んでアドバイスをし合ったり、すてきな表現「きらりことば」を見つけたりする。
○自分のお話を読み直し、友だちのお話で見つけた良いところや「きらりことば」を参考にして、直したほうが良いところや付け加えをし、清書する。

第三次

○自分たちの作った「世界に１つだけのお話」発表会をし、良いところを見付けて感想を伝え合う。
○場面がつながるように物語を書くことができたかを振り返る。

付けたい力に向けた言語活動
【登場人物の行動や会話、出来事のつながりを考えて、世界に一つだけのお話を作る】

◇意識の流れ

【児童の実態】
・文意の伝わりにくい文章を書く児童がみられる。

・「世界に１つだけのお話」を作って、お話発表会をするんだね。
・お話を作るの楽しみだな。

・どんなお話にしようかな。
・きっとこう言ってると思うな。
・お話を作る時は、会話文だけでなく「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」また、気持ちを表す言葉やつなぐ言葉を入れて書くと、お話がよく分かるようになるんだな。
・友だちのきらりことば、すごく気持ちが分かる言葉だな。ぼくも入れて書いてみよう。
・アドバイスをしてもらったことを入れて書いてみたら、すごくお話がつながるようになったよ。

・何をしたお話かよく分かったよ。
・どんなことが起きたか分かったよ。
・同じ絵でもいろいろなお話ができるんだな。
・お話作るの楽しかったな。もっと違うお話も作ってみたいな。
・～さんみたいにつなぐ言葉を入れると場面がよくつながって、お話がよく分かるな。

単元で付けたい力
・絵から場面の様子を想像し、登場人物の行動や会話を中心に場面のつながりを考えて物語を書く力
【B　書くこと（ウ）】

他教科への広がり

○生活科「おもちゃまつり」へようこそ
・おもちゃの作り方・遊び方を短い文章で書き、順序よく１年生に伝える。

６　指導計画及び評価計画（全９時間）

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1	お話、大すき！「せかいに１つだけのお話」を作るために めあてとながれをつかみ、学しゅうの計画をたてよう。 ・教師による「世界に１つだけのお話」のモデルを見る。 ・単元の流れを見通す。 ・お話発表会に向けて、「『世界に１つだけのお話』を作ろう。」という意欲を持つ。	【関】絵から場面の様子を想像してお話を作ることに興味を持ち、楽しんで取り組もうとしている。 （行動観察、ノート、発言）
	2	お話、大すき！「せかいに１つだけのお話」を作るために お話を書くときにたいせつなことを考えよう。 ・物語の書き方を理解する。 ・「時」「人物」「場所」「行動」 ・会話文「　。」の書き方 ・接続表現の使い方	【関】絵から場面の様子を想像してお話を作ることに興味を持ち、楽しんで取り組もうとしている。 （行動観察、ノート、発言）
第二次	3	お話、大すき！「せかいに１つだけのお話」を作るために どんなお話にするか考えて、ふき出しに書こう。 ・場所、登場人物、場面の状況等をつかみ、会話文を書く。	【書】絵から想像したことをもとに前後の場面のつながりを考えて会話文を書いている。 （ふき出し、発言）
	4 本時	お話、大すき！ 「せかいに１つだけのお話」はっぴょう会をするために つながりを考えて、お話を作ろう。 ・絵から想像した会話文を入れながら、場面の展開を考えてお話を書く。	【書】絵から場面の様子を想像し、人物の行動や会話のつながりを考えてお話を書いている。 （ワークシート）

	5 ・ 6	お話、大すき！ 「せかいに１つだけのお話」はっぴょう会をするために つながりを考えて、お話を作ろう。 ・「時」「場所」「人物」「行動」をあらわす言葉や、会話文、接続表現を入れながら文章を書いている。	【書】絵から場面の様子を想像し、人物の行動や会話のつながりを考えてお話を書いている。 （ワークシート） 【言】会話文としての「　。」の使い方を理解し、文章の中で使っている。 （ワークシート）
	7 ・ 8	お話、大すき！ 「せかいに１つだけのお話」はっぴょう会をするために ステキなお話になるようにくふうして書こう。 ・友だちの「きらりことば」を見つけて伝え合ったり、アドバイスをし合ったりする。 ・アドバイスしてもらったところや友だちの「きらりことば」等を参考にして取り入れたり、間違いを直したりして、さらにステキなお話になるように文を工夫する。	【書】お話を読み合い、良いところを見付けて、感想を伝え合ったり、アドバイスをし合ったりしている。 （行動観察、発言、ノート） 【関】アドバイスしてもらったことを取り入れたり、間違いがあったら正そうとしたりして、より分かりやすい文章に直そうとしている。 （ワークシート）
第三次	9	お話、大すき！ 「せかいに１つだけのお話」はっぴょう会をしよう。 ・友だちの良いところに気づき、感想を伝え合う。 ・学習の振り返りをする。	【書】友だちのお話の良いところを見つけて、感想を伝え合っている。 （行動観察、発言、ノート） 【関】登場人物の行動や会話を中心に場面がつながるようにお話を書くことができたかを振り返ろうとしている。 （発言、ノート）

７　学習の展開（全９時間）

第一次　１時間目（１／９）

（１）目標　　世界に１つだけのお話を作ることに興味を持ち、これからの学習を楽しんで取り組もうとする。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
１　本時の課題をつかむ。 **思考したくなる課題設定** お話、大すき！「せかいに１つだけのお話」を作るために めあてとながれをつかみ、学しゅうの計画をたてよう。	○単元名　「絵を見て、『世界に１つだけのお話』を作ろう」を板書し、興味を持たせる。
２　課題を解決する。 （１）１学期、図書の時間に自分たちが作った紙芝居を見る。 （２）教師のモデル「世界に１つだけのお話」を聞く。 **かかわり合う授業** （３）教師のグッドモデルとバッドモデルを聞いての感想を出し合う。 ・会話文があると、お話がよく分かるな。 ・会話文がある方が、楽しいお話になるな。 ・会話文だけだと誰がしゃべったのかわからないな。お話も良く分からないな。 ・お話を作る時は、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」と言うことを書くといいんだな。 ・お話が続くように書くといいんだな。 （４）学習の計画を立てる。 ・会話文を考えたいな。 ・あらすじを考えたいな。 ・どんなお話にしたいか考えたらいいな。	○お話を作る楽しさを想起させる。 ○グッドモデルとバッドモデルを聞かせる。 ○お話を作る時にどんなことに気をつけたらいいか、思ったことを発表させる。 ※グッドモデルとバッドモデルのちがうところを見つけられるように声をかける。 ○自分たちも作ってみたいなという気持ちを持たせる。 ○お話を作るために、どんなことを学習していくといいか考えさせる。
３　今日の学習を振り返る。 ・お話を作ったら、お話発表会で発表することがわかったよ。 ・お話作るの楽しみだな。早く作りたいな。 ・みんなどんなお話作るか、楽しみだな。 ・お話発表会で、みんなのお話聞くの楽しみだな。	☆絵から場面の様子を想像してお話を作ることに興味を持ち、楽しんで取り組もうとしている。 【関】（行動観察、ノート、発言）
４　次時の学習について知る。 **家庭学習のサイクル化** 家庭学習 Ｐ．２５とＰ．２６～２７を比べながら読み、同じ文を見つけて線を引いてくる。	○次時は、お話を分かりやすく書く方法について学習することを伝える。

第一次　２時間目（２／９）

（１）目標　　場面の様子を分かりやすく伝える物語の書き方を理解することができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
１　本時の課題をつかむ。 **思考したくなる課題設定** お話、大すき！「せかいに１つだけのお話」を作るために お話を書くときにたいせつなことを考えよう。	○単元のゴールイメージを共有し、本時の学習のめあてを持たせる。
２　課題を解決する。 **自力解決の場** （１）Ｐ．２５とＰ．２６の①の場面の文章を比べ、同じ所と違う所に気付く。 ・昨日家でも、見付けてきたよ。 ・どこを比べたらいいか分からないなあ。 ・「いつ」を表す言葉が、使われているな。 （２）地の文には何が書かれているか考える。 ・「それから」という文をつなぐ言葉が使われているよ。 ・「よろこんで」という言葉から、二人の気持ちがよくわかるよ。 （３）Ｐ．２５とＰ．２７の③の場面の文章も比べながら、同じように確かめていく。 **かかわり合う授業** （４）お話を書くときに大切なことを発表し合う。　（ペア→全体） ・「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」「会話文」「気もち」「つなぐ言葉」を入れて書くと分かりやすいお話になるね。	○Ｐ．２６・２７の文章（Ｐ．２５の吹き出しと同じ会話文）に赤線を、Ｐ．２６・２７の地の文（Ｐ．２５のあらすじと同じ文章）に青線を引かせる。 ※困っている児童には、１文ずつ確かめながら、違いに気付かせる。 ○「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」を確認し、それぞれどのように文章に表されているか考えさせる。 ○①の場面の最後の文が、②の場面につながるお話になっていることにも気付かせたい。 ○Ｐ．３０「ことば」欄を参考にして、場面と場面をつなぐ接続表現の使い方を確かめる。これまでに出てきた接続表現も想起させる。 ・「すると」「そこで」「ところが」「こうして」など
３　今日の学習を振り返り、物語を書くときに大切なことをノートにまとめる。 ・「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を入れて書くと、お話がよく分かるようになるんだな。 ・「会話文」を入れるとお話が楽しくなるな。 ・今日勉強したことを使って、お話をはやく書いてみたいな。	○今日の学習のめあてを確認し、物語を書くときに大切なことをノートにまとめさせる。 ☆絵から場面の様子を想像してお話を作ることに興味を持ち、楽しんで取り組もうとしている。 【関】（行動観察、ノート、発言）
４　次時の学習について知る。 **家庭学習のサイクル化** 家庭学習 教科書Ｐ．２５の３枚の絵を見て、くまさんとうさぎさんがどんなお話をしているか書いてくる。	○次時は、教科書Ｐ．２５の３枚の絵を見て、くまとうさぎがどのような会話をしているか吹き出しに書くことを伝える。

第二次　１時間目（３／９）

（１）目標　　絵から想像したことをもとに前後の場面のつながりを考えて会話文を書くことができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
１　本時の課題をつかむ。 **思考したくなる課題設定** お話、大すき！「せかいに１つだけのお話」を作るために どんなお話にするか考えて、ふき出しに書こう。	○単元のゴールイメージを共有し、本時の学習のめあてを持たせる。
２　課題を解決する。 （１）教科書Ｐ．２５の絵を見て、登場人物をおさえる。 ・くまさんとうさぎさんが出てくるお話だな。 **自力解決の場** （２）３枚の絵を見て、「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」お話にしたいか考える。 ・どんなことを書こうかな。 ・くまさんとうさぎさんが山にりんごをとりに行ったお話にしよう。 **かかわり合う授業** （３）予習で考えてきた会話を発表する。 （４）吹き出しに書く。(ペア) ・どんなことを書いたらいいのかな。 ・きのう、家でも考えてきたよ。 ・うわぁ、すごい、いっぱいりんごがなってる。でもわたしじゃ、とどかないや。どうしよう。 ・だいじょうぶだよ。かわりにぼくが、とってあげるよ。	※困っている児童には、「だれが」「どうした」を考え、会話を書くことができるよう支援する。 ※困っている児童には、登場人物になりきらせて、ペアで会話をするよう支援する。 ☆絵から想像したことをもとに前後の場面のつながりを考えて会話文を書いている。 【書】（ふき出し、発言）
３　今日の学習を振り返る。 ノートにふりかえりを書く。 ・２人がなかよくりんごをとって帰っているお話にしたいな。 ・うさぎさんとくまさんになってお話したら考えられたよ。 ・どんなことをお話したか、吹き出しに書けたよ。	○今日の学習のめあてを確認し、めあてに沿った振り返りをさせるようにする。
４　次時の学習について知る。 **家庭学習のサイクル化** 家庭学習 Ｐ．２６～２７のお話をよく読んで、今日考えた会話文を入れてお話を考えてくる。	○次時は、今日勉強した「お話を書くときに大切なこと」やＰ．２５の会話文を入れながら、「世界に１つだけのお話」を書いていくことを伝える。

第二次　２時間目（４／９）本時

（１）目標　　絵から場面の様子を想像し、人物の行動や会話のつながりを考えてお話を書くことができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
１　本時の課題をつかむ。 **思考したくなる課題設定** お話、大すき！「せかいに１つだけのお話」はっぴょう会をするために つながりを考えて、お話を作ろう。	○単元のゴールイメージを共有し、本時の学習のめあてを持たせる。
２　課題を解決する。 （１）お話の書き方を思い出す。 **自力解決の場** （２）Ｐ．２５に書いた会話文を入れながら「中」のお話を書く。 ・どうやって書けばいいかな。 ・昨日考えた会話文を入れて書いてみようっと。 ・家でも考えてきたから、すらすら書けるよ。 **かかわり合う授業** （３）発表し合う。（ペア→全体） ・主語がないと誰が言ったかわからないよ。 ・主語を書くと誰が言ったかよく分かるよ。 ・　～さんのお話は、だれが何をしたかを書いているからすごくわかりやすいね。 ・ぼくも～さんみたいに書いてみよう。 （４）アドバイスしてもらったことを取り入れたり、間違ったところを直したりする。	○前時で学習したお話の書き方で大切なことを想起させる。（「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」、会話文「　。」、接続表現などを入れて書かせる。また、この視点を使って読んだり、書いたりすることを伝える。） ※困っている児童には、Ｐ．２５の②の文をそのまま書き出しの文として使っても良いことを伝える。 ※絵と会話をもとにつながりのある文章が書けるよう支援する。 ○はやくできたら、読み直しをするよう声をかける。 ○書いたものを読み合い、良い所を見つけて、感想を伝え合ったり、アドバイスをし合ったりさせる。 ○自分が想像したことと比べながら、友だちの話を聞くように声をかける。 ☆絵から場面の様子を想像し、人物の行動や会話のつながりを考えてお話を書いている。 【書】（ワークシート）
３　今日の学習を振り返る。 ノートにふりかえりを書く。 ・お話がよく分かるように書けていたね。 ・お話が、つながるように書けていたね。 ・同じ絵でもいろんなお話ができるんだな。 ・みんな違って、みんないいな。	○今日の学習のめあてを確認し、めあてに沿った振り返りをさせるようにする。
４　次時の学習について知る。 **家庭学習のサイクル化** 家庭学習 次時は、自分が選んだ絵を見て、どんなお話にしようか考えてくる。	○次時は、お話を書きたいと自分が選んだ絵を見て、「世界に１つだけのお話」を作っていくことを伝える。

（3）評価規準

B　概ね満足できる状況

◆主語や述語、会話文などが書かれ、場面と場面がつながるように書けている。

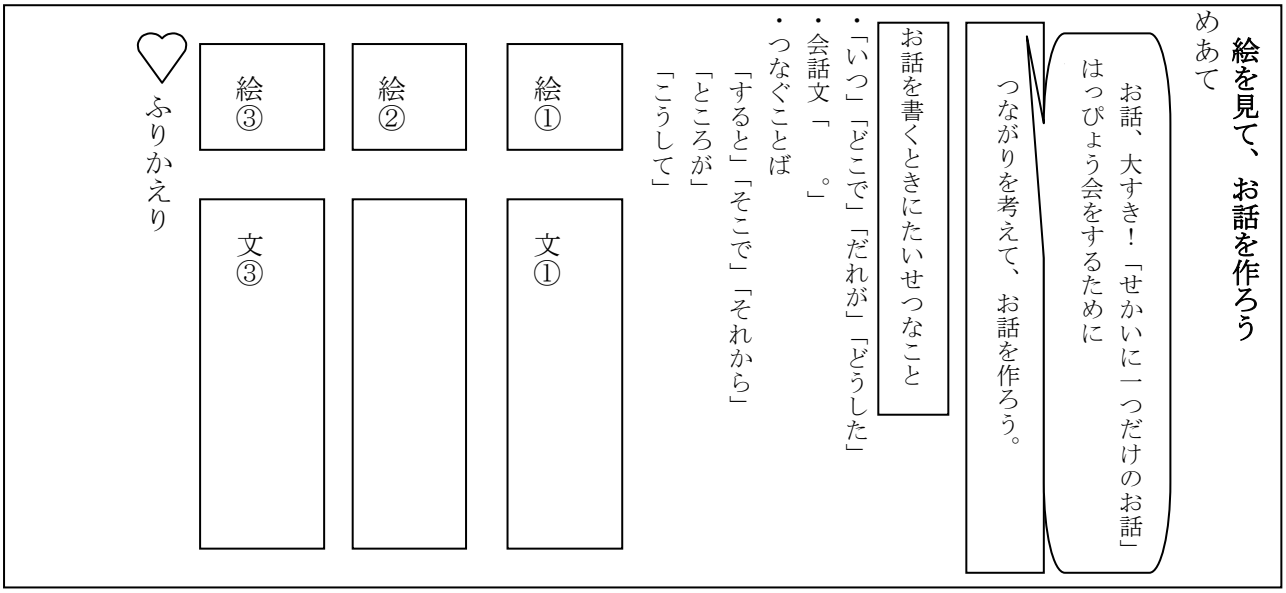
　くまとうさぎは、りんごの木のところにやってきました。うさぎが、
「りんごがいっぱい。でもどうしよう。とどかないわ。」
と、言いました。
「ぼくが、とってあげるよ。」
くまが、言いました。くまは、りんごをとってあげました。
　二人は、りんごをたべました。
　二人は、おなかがいっぱいになったので、帰ることにしました。

A　十分満足できる状況

◆接続表現「つなぐことば」や様子や気持ちが分かる「きらりことば」を入れて、場面と場面がつながるように書けている。

　次の日、くまとうさぎは、わくわくしながら、りんごの木のところにやってきました。
　すると、木には、たくさんのりんごがなっているではありませんか。
　うさぎが、言いました。
「うわぁ、すごい。おいしそうなりんごが、いっぱい。でも、どうしよう。とどかないわ。」
　心のやさしいくまは、
「だいじょうぶだよ。ぼくが、うさぎさんのぶんもとってあげるよ。」
と言って、うさぎにいっぱいりんごをとってあげました。
　うさぎは、なんてやさしいくまさんだろうと思いました。うさぎは、にっこりわらって、くまさんに
「ありがとう。」
と言いました。
　そして、二人は、
「おいしいね。」
「おいしいね。」
と言いながら、なかよくすわって、りんごをたべました。
　おなかいっぱいになった二人は、かぞくのみんなにも、おみやげにもって帰ることにしました。
「うさぎさんのぶんも、ぼくのリュックに入れてあげるね。」
くまが、言いました。

（4）板書計画



（5）準備物

・3 枚の絵　　・ワークシート

第二次　４・５時間目（５・６／９）

（１）目標　　絵から場面の様子を想像し、人物の行動や会話のつながりを考えてお話を書くことができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
１　本時の課題をつかむ。 **思考したくなる課題設定** お話、大すき！「せかいに１つだけのお話」はっぴょう会をするために つながりを考えて、お話を作ろう。	○単元のゴールイメージを共有し、本時の学習のめあてを持たせる。
２　課題を解決する。 （１）お話の書き方を思い出す。 「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」「会話文」「つなぐことば」を入れて書くとお話が良く分かるようになる。 **自力解決の場** （２）会話文やお話の書き方で大切なことを入れながら、お話を書いていく。 ・何から書こうかな。 ・「いつ」「どこで」「だれが」「どうしたか」を書いていくんだったね。 ・会話文も入れて書くようにしよう。 ・どんなつなぐ言葉を入れたらいいかな。 ・気持ちを表す言葉も入れたいな。 **かかわり合う授業** （３）相談したり、アドバイスをし合ったりする。(ペア) （４）お話ができあがったら題を考える。	○お話の書き方で大切なことを想起させる。 ※困っている児童には、「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」かを想像させ、前時で作ったお話を参考に書くよう支援する。 ※絵と会話をもとにつながりのある文章が書けるよう支援する。 ☆絵から場面の様子を想像し、人物の行動や会話のつながりを考えてお話を書いている。 【書】(ワークシート) ☆会話文としての「　。」の使い方を理解し、文章の中で使っている。 【言】(ワークシート)
３　今日の学習を振り返る。 ノートにふりかえりを書く。 ・お話がつながるように書けたよ。 ・友だちの作ったお話もよく分かるように書けていたよ。 ・みんなのお話もはやく聞きたいな。楽しみだな。	○今日の学習のめあてを確認し、めあてに沿った振り返りをさせるようにする。
４　次時の学習について知る。 **家庭学習のサイクル化** 家庭学習 今日作ったお話が、つながるように書けているか、お家の人にも聞いてもらって来る。	○次時は、今日作ったお話が、さらにステキなお話になるよう、間違いを教え合ったり、アドバイスをし合ったり、いい所を見つけ合ったりすることを伝える。

第二次　６・７時間目（７・８／９）

（１）目標　　お話を読み合い、良いところを見つけて感想を伝え合ったり、アドバイスをし合ったりすることができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
１　本時の課題をつかむ。 **思考したくなる課題設定** お話、大すき！「せかいに１つだけのお話」はっぴょう会をするために ステキなお話になるようにくふうして書こう。	○単元のゴールイメージを共有し、本時の学習のめあてを持たせる。
２　課題を解決する。 **かかわり合う授業** （１）友だちの作ったお話を読み合い、良いところを見付けたり、間違っているところを教え合ったり、アドバイスをし合ったりする。 ・誰が言ったか、主語を入れるといいよ。 ・「　。」を書き忘れているよ。 ○「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」が書かれているか。 ○会話文に「　。」が使われているか。 ○　、や　。が使えているか。 ○つながりに合った接続表現を使っているか。 （２）友だちのお話の良い所を参考にしながら、アドバイスしてもらったことを取り入れたり、間違いを直したりして、清書する。 ・アドバイスしてもらったことをここに付け加えてみよう。 ・ていねいに書いていこう。 ３　今日の学習を振り返る。 ノートにふりかえりを書く。 ・友だちが、アドバイスしてくれたから、ステキなお話になったよ。うれしいな。ありがとう。 ・お話が、つながるようくふうして書けたよ。 ・みんなどんなお話作ったかな。明日が楽しみだな。	☆お話を読み合い、良いところを見付けて、感想を伝え合ったり、アドバイスをし合ったりしている。【書】（行動観察、発言、ノート） ※声に出して読み合い、アドバイスをしあうよう声をかける。 ☆アドバイスしてもらったことを取り入れたり、間違いがあったら正そうとしたりして、より分かりやすい文章に直そうとしている。【関】（ワークシート） ○今日の学習のめあてを確認し、めあてに沿った振り返りをさせるようにする。
４　今日の学習を生かすことについて知る。 **家庭学習のサイクル化** 家庭学習 今日できあがった「世界に１つだけのお話」をゆっくり、気持ちを込めて読む練習をしてくる。	○次時は、『お話、大すき！「世界に１つだけのお話」はっぴょう会』をすることを伝える。

第三次　１時間目（９／９）

（１）目標　　お話を発表し合い、良いところを見つけて感想を伝え合うことができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
１　本時の課題をつかむ。 お話、大すき！ 「せかいに１つだけのお話」はっぴょう会をしよう。	○単元のゴールイメージを共有し、本時の学習のめあてを持たせる。
２　課題を解決する。 **かかわりあう授業** （１）自分の作ったお話を発表し、感想を話し合う。 ・～さんの登場人物の会話がおもしろかったな。 ・～さんのお話は何をしたお話かよく分かったよ。 ・～さんのお話は、どんなお話かよくわかったよ。 （２）学習全体の振り返りを書く。 ◎できたこと ◎こまったこと ◎アドバイスしてもらったこと ・「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を入れて、場面がつながるように書けるようになったよ。 ・会話文を書く時、「　。」を書くのを忘れてそのまま書く時があるから、気をつけたいな。 ・つなぐ言葉を入れて、お話がつながるように書けたよ。 ・同じ絵でもいろんなお話ができるんだな。 ・お話作るの楽しかったな。またいろんなお話を作ってみたいな。	※聞く人によく聞こえる声で発表するよう声をかける。 ※聞く人は、お話がつながるように書けているかどうか考えながら聞くよう声をかける。 ○自分たちの作った「世界に１つだけのお話」発表会をし、感想を伝え合うよう声をかける。 ☆友だちのお話の良いところを見つけて、感想を伝え合っている。 【書】（行動観察、発言、ノート） ○できるようになったことや自分では難しかったなと思う所、良かった所などを振り返るようにさせる。 ☆登場人物の行動や会話を中心に場面がつながるようにお話を書くことができたかを振り返ろうとしている。 【関】（発言、ノート）
３　学習したことを生かして、今後の取組について確認する。 **家庭学習のサイクル化** 家庭学習 自分の作った「世界に１つだけのお話」をお家の人に読み、感想をもらい、国語日記に書いてくる。	○児童創作童話コンクール（ＥＮＥＯＳ主催）の紹介をし、お話づくりへの興味・関心を広げる。